

2017年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本小児循環器学会

正式名称

学んで救えるこどもの命 ♡「PH Japan プロジェクト」

医学教育事業の概要

遠隔通信テレビ会議システムによる特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧(PAH)のセミナー・ワークショップを開催。セミナー対象は、A コース) 医師以外の医療・学校・患者関係者、B コース) 循環器を専門としない小児科医で、C コース) ではA・B 参加者によるワークショップを実施。我が国の小児期 PAH の診療状況を改善する。

医学教育事業の対象者

医療関係者：小児医療に携わる開業医、勤務医、後期研修医、看護師(含：在宅看護師)、保健師、薬剤師、心理士など。その他：学校関係者、患者関係者。対象となる医療関係者の想定人数：1,000 人

医学教育事業の必要性

PAH は予後不良の疾患である。最近、早期診断・治療の有益性が報告されているが、希少疾患のため疾患の認知度が低く、診断までの期間は短縮されていない。また診断後の治療においては、様々な分野の医療関係者、学校関係者および家族のサポートが必要でその教育は重要であるが、全国規模の教育システムは本邦に存在しない。本事業は医療関係者の育成と患者関係者に対する体系的な教育を学会が主体となって行い、小児肺高血圧医療に対する理解が広く浸透し、その進歩に貢献することを目指す。遠隔配信セミナー形式とすれば、遠隔地からの参加も容易で、講師と聴衆の双方向性通信が可能であり、全国規模の有効な教育が可能と考えられる。

医学教育事業の目的

小児肺高血圧の診断、治療、在宅ケアについて、医師、看護師、助産師、薬剤師、理学療法士、心理士など多職種の医療関係者、家族周囲のサポート機関、学校および保健所を含んだ地域関係者、さらに患者家族に対して、学会が主体となって教育システムを構築して活用し、日本の小児肺高血圧症の診療状況を改善することが、今回の医学教育事業の目的である。日本全国から参加可能な形態を考えると、双方向性を維持した遠隔通信システムが最も適切と判断する。

医学教育事業の計画・方法等

講義のテーマ

広い範囲の職種と患者関係者を対象とするため、A コース(看護師、保健師、地域の小児保健関係者、学校関係者、患者家族向け)、B コース(開業小児科医師、勤務医、小児科後期研修医向け)の半日開催を3回行う。連携を有機的にするためA、B コース参加者を対象としワークショップ(C コース)を1回行う。

遠隔配信のためのテレビ会議システム

メイン会場を東京とし、H.323 形式を用い、サテライト会場として、旭川医大、北大、筑波大学、名古屋大学、愛媛大学、九州大学を SINET により接続する。講演はメイン会場のみで行う。質疑応答は、メイン会場では講師と参加者の間で直接行い、サテライト会場では、参加者からメールでの送信により行う。

参加者を募る方法

関係各団体への広報を、各地域の小児科医会、小児保健協会、看護師会、保健師会、助産師会、学校保健会を通して行う。

セミナーの効果を高める方策

テキストブックを作成し、参加者の自学に役立つ教材資料を提供する。講演や議論の内容は、セミナーホームページにて開催から1年間は閲覧可能とする。

医学教育事業のスケジュール

2018 年 6 月までにプログラム作成を行う。2018 年 8 月、2019 年 2 月、8 月に A コースおよび B コースを、2020 年 2 月に C コースを開催する。

医学教育事業の効果の測定方法

セミナー前後の小テストの実施およびセミナー後のアンケートの実施により医学教育事業の効果について評価する。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

事業の成果は、当セミナー、日本小児肺循環研究会および日本小児循環器学会のホームページ上で公表する。遠隔配信された講義をインターネット経由で一定期間閲覧できる様にする。